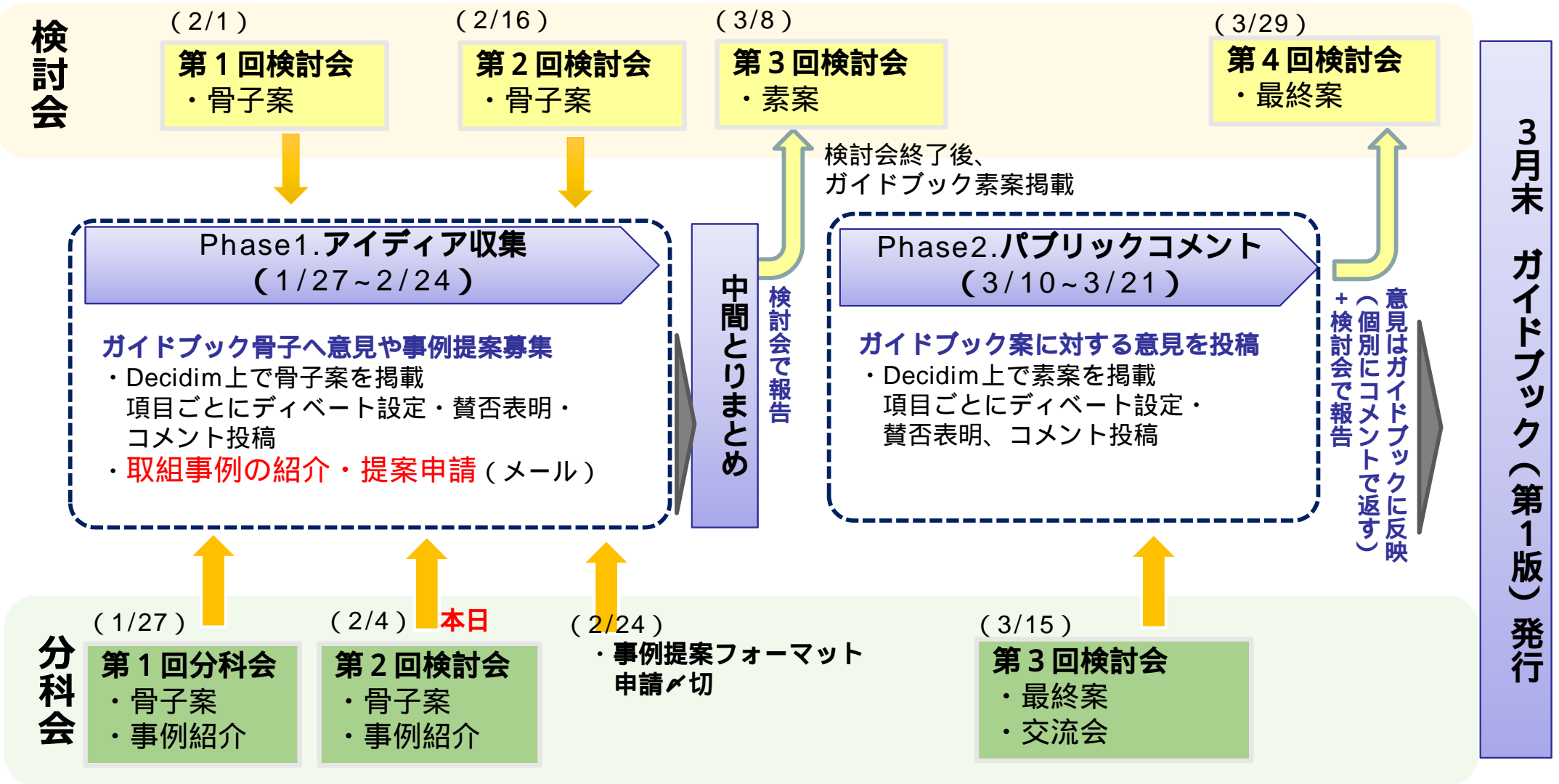


スケジュール

- 2つのPhase（アイデア収集（1-2月）、パブコメ(3月)）を経て3月末に第1版発行
- 骨子案・本文案はDecidim上で共有し、検討会・分科会メンバーからコメント投稿



- ・ 分科会で出た意見は、事務局でDecidimに投稿 発言意図と違った場合はコメントで補足説明
- ・ メールで提出いただいた事例は、とりまとめののち、Decidimに掲載 + 検討会で紹介
優れたものは、ガイドブック本文中に掲載

(前回) スマートシティガイドブック分科会 第1回 開催概要

- 主催：スマートシティ官民連携PF事務局（内閣府・総務省・経済産業省・国土交通省）
- 日時：2021年1月27日(水) 10:00～12:00（120分）※Web開催
- 議事：説立趣旨およびガイドブック骨子の説明、参加者からの取組事例発表、グループディスカッション
- 参加者：61団体 92名が参加（自治体11団体、民間企業50団体）

第1回分科会で出た主な意見

<スマートシティの意義・必要性>

- ・現状抱える課題とスマートシティのビジョンとの繋がりが重要。
- ・住民目線・主体のビジョンの策定が必要。
- ・自治体、住民に加えサービサーが入ることで、課題を相談できる体制ができることが一番のスマートシティのメリットと感じる

<機能的、機動的な推進体制の構築>

- ・行政、民間、住民の役割分担が重要
- ・協議会という形式ではなく、その持続可能性が重要。利益を生み出し、持続性を持たせる体制の構築が重要。
- ・各企業が強みを活かし何をやりたいのか、何を担うのかを明確にした上で、協議会として共有することが実行力のある組織のためには必要。
- ・スマートシティアーキテクト等体制に必要なスキルセットを定義できるとよい。

<ガイドブック全般にかかる意見>

- ・具体的なスマートシティビジョンを地域で共有できる事例が欲しい。
- ・進め方のステップや体制について、読み手が自身の都市規模や特性、取組段階に合わせて選べるよう、複数パターン示されると良い。

今後の予定

分科会の意見を集約しガイドブックに反映

- ・3月中旬まで、検討会と並行する形で全3回の会合を開催予定
- ・オンライン上のプラットフォーム「Decidim」を活用し、より幅広い意見や提案の募集を行う



スマートシティ・ガイドブック検討会（第1回）主な意見

- 日時：2021年2月1日(月) 16:00～18:00（120分）※Web開催
- 議事：説立趣旨、ガイドブック骨子（案）、意見交換
- 事務局：内閣府、総務省、経済産業省、国土交通省

第1回検討会で出た主な意見

＜ガイドブック全般について＞

- ・ガイドブックは何をしてよいか分からない自治体職員に対して、一歩踏み出してもらうことが目的である。
- ・細かいやり方は書きすぎず、事例を多く紹介してはどうか。
- ・総合的な取組だけでなく、こじんまりだが熱量の高い事例も紹介してほしい。
- ・十分取組が進んでいる中でも残っている課題もあるはずであり、残った課題をオープンクエスチョンとして記載してはどうか。

＜スマートシティの意義・必要性、定義・効果について＞

- ・スマートシティの効果について、市民の実感に訴える言葉が必要である。市民目線で具体的に何がよくなるというメッセージを具体的に示す必要。
- ・これまでのスマートシティの取組はモビリティや行政サービス等の機能を効率的に提供するかという視点が強かったのではないか。
- ・QOLはいささか古い概念。今は世界的にWell-Being（幸福度）やLivability（住みやすさ）
- ・「SDGs」や「地域循環共生圏」との関係性についても触れる必要があるのではないか。

＜基本理念・基本原則について＞

- ・デジタルリテラシーや属性等の違いに関わらず協働できるような社会をつくることが求められている中でスマートシティの取組は重要であり、「包摂性」の理念は高く掲げたほうがよい。
- ・データの流通環境についてのオープン性の他、社会に対する取り組みや意思決定の「透明性」という観点も必要。

＜スマートシティの進め方について＞

- ・初動段階において、都市・地域が有する様々なアセット・リソースを、人材も含めて洗い出す作業も必要。
- ・スマートシティの作り方に重点を置いているが、つくって終わりではなく、モニタリングしアジャイルに更新していくことが重要。

＜推進主体について＞

- ・ガバナンスの目的は合理的かつ正しい意思決定とその適切な執行。そのための手続や段取りに関しても記載できないか。
- ・産官学民の多様な主体がいる中で、各々のリスクやリターンの方針などガバナンス原理が違い、現場の課題となっている。

＜財政的持続性について＞

- ・クロスセクターベネフィットは、担当部局ごとの予算執行などが課題となっているのではないか。うまくやっている事例はないか。

ガイドブック編集の“スタンス”

- 自治体・協議会の方が「読み」「(関係者への説明等に)使い回せる」ものに
(引用可、PPT形式を想定)
- 読者が「やってみたい」「取り組んでみたい」と思える、「勇気」が湧くものに
- 特に「取組の過程に共感できるか」を重視。そこで事例を豊富に掲載したい
 - エピソードをストーリーで、Before/After が見えるように

事例で見せたいポイント

- ① この地域にはこんな課題があり
- ② こんな方法で解決しようとした
- ③ 結果、うまくいった／いかなかった
- ④ それはこんな理由だったから

- うまくいった／いかなかった の両面が大事
- 地域名は出せるとありがたいが、匿名でも可

③ 財政的持続性の確保

「財政面からの持続性確保分科会」
デロイトトーマツコンサルティング様から

④ データ・技術・ノウハウ等の共有

NEC様から

3つのテーマ

- ③ スマートシティ構築・運用の財政的課題
- ④ データ利活用の課題
- ⑤ スマートシティの進め方（初動／準備／計画策定…）

上記について、できるだけ多くの「悩み」とそれに関わる「事例」を挙げ、シートにお書きください！

悩み

- ・こんなことで失敗した
- ・こんなことに困っている
- ・どうしたらいいか知りたい

事例

- ・特にこんな状況で…
- ・それと似た状況ありました
- ・いい解決事例知ってます

【再掲】Decidimでのご意見・ご提案の募集について

スマートシティのガイドブックの充実化に向けて、分科会メンバーによる現場での取組の知見を“Decidim”上で集め、ガイドブックに反映。

参加型プロセストップ

○ガイドライン骨子目次

- 1．スマートシティに取り組む意義・必要性
- 2 - 1．スマートシティに取り組む上での原則と基本理念
- 2 - 2．スマートシティのプロセス・手順
- 2 - 3．主な課題と対応の考え方

各ディベート

事務局案

2 - 1．スマートシティに取り組む意義・必要性

・市民（利用者）中心主義

“市民QOLの最大化”がスマートシティの最大の狙いであることを認識し、行政や民間事業者等のサプライサイドではなく、・・・

参加メンバーでの議論

○事務局素案に対する賛成・反対意見の記入

Ex) (賛成) ～～なので、この基本原則の提言は重要

○参加者からの新たな提案

Ex) (提案) このような観点以外に、～～という観点も重要なので追加してほしい

Ex) (提案) ～～市では～～を行っており参考になる

○参加者意見に対する賛成・反対意見の記入

Ex) (賛成) ～～の意見に賛同

賛成・反対の表明については、コメントごとに「いいね」ボタンでの対応も可能か